

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/03/14号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

円建てゴールド史上最高値を付け下落

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



前週はまた、さらに記憶にも記録にも残る一週間となりました。ゴールドはドル建てではスポットベースで2069ドルまで上昇。ComexのActive monthであるAprilでは2088ドルのプリントがあり、Comexベースでは歴史的な高値を更新したということになります。Spotベースでは2020年8月7日の2072.5ドルにはわずかに及ばずということになりました。この意味するところは、先物が投資家によって大きく買われて、スポットとComexが大きく乖離したということです。しかし円建てゴールドは連日最高値を更新、最高値は7694円とこれまでの高値を大きく塗り替えるレベルとなりました。この高値をつけたあと、ウクライナゼレンスキー大統領の若干融和的な発言が伝えられ、それをきっかけにここまで大きく上げてきた安全資産に利食い売りが一斉に出てそれがスノーボールエフェクトで膨らんでいきました。そして一方、大きく売られてきたリスク資産、株式は逆に値を戻しました。この利食い売りによるロングの解消の動きに、ゴールドは高値の2069ドルから一時1960ドルというほぼ100ドル近い動きになりました。山高ければ谷深し、というまさにその言葉通りの動きですが、その後は2000ドル近辺での小動きに終始となりました。木曜日には2月の米消費者物価指数（CPI）が発表となり、前年比7.9%とこれはほぼ市場予想通りの数字であったためマーケットの反応は薄かったのですが、相変わらず40年ぶりのインフレは変わらず、ウクライナ情勢で、さらに上昇基調が明らかになったエネルギーと穀物からの物価上昇圧力はまだまだこれからのインフレの進行を予想させます。それに加えてウクライナ情勢は平和的な解決は絶望的な状況であり、利食い売りが一巡すると再びまた安全資産が見直される場面があると考えます。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

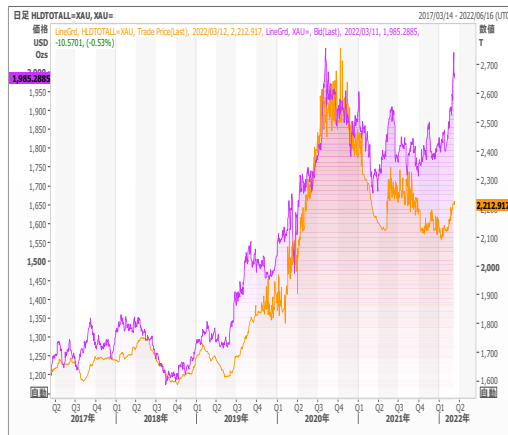
【マーケット・トピック】

日本のゴールド価格

「スポット価格」

(Loco Tokyo Gold価格)

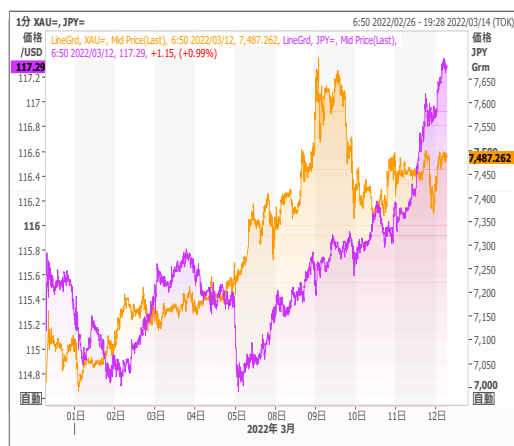
昔はLoco London 市場に対して、Loco Tokyo gold 市場というOTC（相対市場）がありました。1980年代後半から1997年くらいまで、日本のゴールドのいわゆるインターバンクプレイヤーである、総合商社、鉱山会社、大手貴金属商などによるマーケットで、グラム当たりの円建て価格で、東京でのキロバー渡しの価格をお互いに出し合い、一単位50kgの取引をしていたマーケットがあり、それが「Loco Tokyo gold market」でした。本来は東京（日本）でのゴールド現物（キロバー）の業者間の融通のためのマーケットでしたが、「ディーリング」が流行となり、当時の商社間の売り上げ高競争に利用されたりして、それなりの出来高がありました。しかし1997年のアジア危機の到来で、それまで総合商社間や鉱山会社の間では「与信」の概念が存在しないと言ってよいお互いの信用は「青天井」の状態でしたが、突然商社といえども「倒産」の危機が真剣に考えられるようになり、お互いへの与信が厳しくなり、もはやゴールドの取引などという高額な与信が発生する取引は取引相手のよっては不可能な状況になり、あえなくLoco Tokyo Gold 市場は消滅してしまいました。筆者はその当時三井物産でディーリングをしていましたが、はじめは20社近くの取引相手があったのが、この与信問題により、ディーリング相手として取引できるのは、同じ大手商社の住友商事と三菱商事だけになってしまったのです。その相対の市場はなくなりましたが、Loco London Gold 市場を取引している（Loco London marketは為替と同じくほぼ24時間マーケットが建っています。）商社が、そのドル建て価格をベースに為替を掛け合わせて、ロンドンと東京の間のプレミアムもしくはディスカウントを考慮して円建ての価格を出しています。当然この価格は刻一刻と変化する価格であり、特にベンチマークとして公表されることもありませんが、マーケットのもっとも中心にある価格ということができます。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

